

瀬戸内海分校プロジェクト

海は人を愛する

くらしにうみ

東京藝術大学
瀬戸内海分校

プロジェクト概要

昨年度から始まった香川県・東京藝術大学連携事業「瀬戸内海分校プロジェクト」は、国内外で活躍している東京藝術大学出身のアーティスト・香川県出身アーティストと中学生・高校生らがチームを組み、海洋環境を想う「海は人を愛する」をメインテーマに、フィールドワークや作品制作、展覧会の準備・開催を行うことで、作品の企画立案から展覧会開催に至るまでの一連の流れを実践的に学ぶプログラムです。2年目の今年は「くらしにうみ」をサブテーマに、暮らしと海の関係について考えを深めながら、展覧会開催までのプロセスをアーティストとともに考え、創り上げていきます。

日程 リサーチ・企画編：2023年8月17日(木)～21日(月) 9:00～17:00 ※ワークショップ編等にもぜひご参加ください。

今後のプロジェクトの予定

- ワークショップ編：9～10月の土日祝日に開催
- 展覧会：10月27日(金)～11月26日(日)、瀬戸内海歴史民俗資料館にて開催

会場 香川大学イノベーションデザイン研究所(高松市番町)、瀬戸内海歴史民俗資料館(高松市亀水町)
瀬戸内の島などを予定(貸切バス・チャーター船での移動)

内容 瀬戸内海等についてのリサーチ(調査・フィールドワーク)および展覧会の作品企画

対象 県内在住の中学生・高校生24名(応募者多数の場合は抽選といたします。)

参加費 無料

募集締切 2023年6月30日(金)

必要事項 氏名(ふりがな)、学校名、学年、連絡先(電話番号)、住所
希望分野
(現代美術、演劇、インスタレーション・映像、写真・インスタレーション)

応募方法

電話/FAXまたはGoogle formで申し込み

応募先

香川県文化振興課 文化芸術グループ
電話：087-832-3785(平日9:00～17:00)
FAX：087-806-0238

Google form：

<https://forms.gle/GNC5rD8XszviSCKZ9>

※本プロジェクトでは記録写真や映像を撮影させていただきます。撮影した写真や映像は、カタログや出版物、ウェブサイト等で掲載される可能性がありますので、未成年の方におかれましては、後日、保護者の皆様の撮影・掲載にかかる承諾書を提出いただけます。なお、ご承諾いただけない場合は、ワークショップ等の運営上、参加をご遠慮いただくことがあります。



“刺激的な夏休みの5日間”がココに！！

リサーチ・企画編 中学生・高校生参加者募集（第2期生募集）

Izumi Ito



Artist アーティスト

現代美術 伊東五津美



Yukari Sakata

坂田ゆかり 演劇

東京藝術大学音楽環境創造科卒業後、全国の劇場で舞台技術スタッフとして研鑽を積む。
2014年、アルカサバ・シアター（パレスチナ）との共同創作『羅生門 | 藪の中』を演出（フェスティバル/トーキョー14）。
2016年、建築家ホルヘ・マルティン・ガルシアと8名の高校生と共に制作した『Dear Gullivers』（瀬戸内国際芸術祭2016「複雑なトポグラフィー」展/特別名勝 栗林公園）は、
2018年ロンドンでのアップデートを経て第16回ヴェネチア建築ビエンナーレのスペイン館に参加。
2022年、International Theatre Institute（ITI/UNESCO）のWorld Theatre Dayにて、日本代表のエマージング・アーティストに選出。

1988年、千葉県生まれ。2021年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。
2022年より同大学、絵画科油画教育研究助手として勤務。美術作家。
自身の身体をメディウムとして捉え、場所を移動した先での視点や自然に介入した時の感覚をきっかけに、
普段の生活との違いや時間軸の差異をテーマに制作をしている。
主な展示に、2019年「瀬戸内国際芸術祭2019秋会期」（公益財団法人 四国民家博物館「四国村」/香川）、
2021年「第8回アラカルト」（船橋市民ギャラリー/千葉）、
「芸術の散歩道」（上野公園/東京）、
2022年「天空の芸術祭2022」（海野宿/長野県）、
「USHIKU REDESIGN PROJECT OPENING」（市原牛久商店街/千葉）、
「さとごうみ展」（池戸公民館/香川）



Takashi Hokoi



Shintaro Miyawaki



インスタレーション・映像 鉾井喬

1984年神奈川県生まれ。2010年東京藝術大学大学院美術研究科修了。
2016年から同大学デザイン科立体工房非常勤講師。
学生時代に人力飛行機のパイロットとして空を飛び、
わずかな風に翻弄された経験から風を可視化する作品を作り始める。
その後カメラマンとしてNHKに就職し、
東日本大震災では仙台平野を襲う津波をヘリから空撮中継。
福島と東京の2拠点生活の傍ら地方芸術祭で滞在制作を行い、
リサーチベースの基、自然とエネルギーの関係性をテーマに制作をしている。
2020年 Vermont Studio Center Artist in Residence (USA)、
SIM Artist in Residence Program (Iceland)、
2021年野村財団芸術文化助成、
中之条ビエンナーレ2023（群馬県）など。

宮脇慎太郎 写真・インスタレーション

1981年香川県高松市生まれ。
大阪芸術大学写真学科卒業後、日本出版、六本木スタジオなどを経て独立。
大学在学時より国内外への旅を繰り返したのち、2009年から高松を拠点に本格的な写真活動開始。
辺境・辺縁で生きる人々や、マイノリティーが浮き彫りにする命の流れと聖性を追求。
2022年にはリアス式海岸が続く南予沿岸地域を6年間撮影した『UWAKAI』を刊行。
同年に初のノンフィクションとしてインドのゴアと屋久島、
二つのヒッピーの聖地を旅した『流れゆくもの～屋久島・ゴア～』出版。
2002年大阪芸大卒業制作展にてホースマン賞受賞。
瀬戸内国際芸術祭公式カメラマン。
2020年香川県文化芸術新人賞受賞。

昨年の様子など瀬戸内海分校プロジェクトの詳細は、ウェブサイトにて。
（情報は、順次更新します。）

<https://www.tua-kagawa.com>

主催 香川県 東京藝術大学
共催 香川大学
（監修 東京藝術大学 学長 日比野 克彦）

